事業所保存・閲覧用
（評価者の個人名は非公表とされておりますので、保護者様・来訪者様等の閲覧用には、こちらの副本をご使用くださいますようお願いいたします）

東京都福祉サービス第三者評価（2024年度）
評価結果報告書

2025年3月31日

社会福祉法人つぼみ会
LIFE SCHOOL桐ケ丘こどものもり　御中

〒 160-0023
所在地 東京都新宿区西新宿西新宿8-14-24
西新宿KFビル702
評価機関名 特定非営利活動法人福祉総合評価機構
認証評価機関番号 機構 03 ー 081
電話番号 03-6279-0331
代表者氏名 理事長 中込 重秋 印

以下のとおり評価を行いましたので、東京都福祉サービス評価推進機構に報告いたします。

評価者（評価者養成講習修了者番号及び担当分野）		修了者番号	担当分野	
	①	H1002063	☑ 福祉	☐ 経営
	②	H0702006	☑ 福祉	☑ 経営
	③	H0902057	☑ 福祉	☐ 経営
	④	H0902065	☑ 福祉	☑ 経営
	⑤	H1001023	☐ 福祉	☑ 経営
	⑥		☐ 福祉	☐ 経営

福祉サービス種別	認可保育所		
評価対象事業所名称	LIFE SCHOOL桐ケ丘こどものもり		
事業所連絡先	〒	115-0054	
	所在地	東京都北区桐ケ丘1-7-17	
	TEL	03-5948-8280	
事業所代表者氏名	赤倉 健		
契約日	2024 年 8 月 1 日		
利用者調査票配布日（実施日）	2024 年 11 月 18 日		
利用者調査結果報告日	2025 年 2 月 19 日		
自己評価の調査票配布日	2024 年 11 月 18 日		
自己評価結果報告日	2025 年 2 月 19 日		
訪問調査日	2025 年 2 月 26 日		
評価合議日	2025 年 2 月 26 日		
コメント（利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入）	・利用者調査は共通評価項目により、インターネットでのウェブアンケート形態で実施した。また調査開始時に書面・ポスターの配信または配付・掲示等により保護者の理解促進を図るほか、開始後には提出御礼と提出促進を兼ねたチラシを全対象者に配信または配付し、必要に応じ提出期限を延長するなど、回答率向上にも努めた。 ・事業所には開始時の説明や独自資料の提供等により、第三者評価制度や評価項目・標準項目への理解を深めてもらうほか、職員層も標準項目単位で評価を行えるようにするなど、自己評価がより的確なものとなるよう配慮した。		

〔事業者の理念・方針、期待する職員像：認可保育所〕　　令和6年度

《事業所名：LIFE SCHOOL桐ケ丘こどものもり》

1	**理念・方針 （関連　カテゴリー1　リーダーシップと意思決定）**
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、 特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連　カテゴリー1　リーダーシップと意思決定）
	・ひとりひとりがいつも安心して生活ができる保育 ・ひとりひとりの特性に即した保育 ・ひとりひとりの力を信じて「自分でできた！」を引き出す保育 ・ひとりひとりの自発的な活動を引き出し見守る保育 ・子ども同士の関わりを大切に小さな挫折を乗り越えることを通して社会性を育む保育
2	**期待する職員像 （関連　カテゴリー5　職員と組織の能力向上）**
	（1）職員に求めている人材像や役割
	これからの未来を支える子どもたちを教育するという情熱を持ち、自らのが新たな未来を作っていく一員であるという自覚と責任感を持った職員であってほしい。また教育や保育についてだけでなく様々な分野にて研鑽を積み学ぶことの楽しさを自らが知っている大人であってほしい。
	（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）
	「ひとりひとりをたいせつに」という当法人の理念を行動・言動で体現するという強い使命を職員には持っていてほしい。これからの時代は想像以上に多様な社会となる。これまでの社会の当たり前を当たり前とせず、様々な特性を持つ子ども全員が豊かに過ごす。ということを追求していく姿勢を期待する。

《事業所名：LIFE SCHOOL桐ケ丘こどものもり》

調査対象	調査開始時点での当園の利用世帯73（在籍児童数90）を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。
調査方法	調査票及び調査項目は共通評価項目に準拠した。 ウェブアンケート形態により実施し、回収は保護者から評価機関への直接電送（外国語世帯のみ調査票の直接郵送）にて行った。 結果は選択式・自由記述とも園に報告し、自由意見には回答者の匿名性に配慮した処理を適宜行った。

利用者総数	90
利用者家族総数（世帯）	73
共通評価項目による調査対象者数	73
共通評価項目による調査の有効回答者数	38
利用者家族総数に対する回答者割合（%）	52.1

利用者調査全体のコメント

総合的な満足度は「大変満足」50.0%・「満足」42.1%の計92.1%と高い値を得ており、設問別でも「発達に配慮した保育活動」「急な残業等への配慮」「職員の対応・身だしなみ」など、全17問中14問で80～90%台の高い支持を得ている。
自由意見では「子どもの自主性が尊重され、フォニコや親子イベント企画（保護者が運営補助せず参加できる点が大変ありがたい）、食事関係の準備（エプロン、タオル、水筒等）が不要なことや、他園に比べ荷物が少ないこと、持ち物や服装の自由度が高いこともよい」「遊びが充実している点や、園庭の坂、こだわった給食、芋や野菜を育ててそれを食べる取組も素敵で、乳幼児は安心信頼の土台をつくるために、先生を担当制にしてくれているところもありがたい」「防犯面と清潔面、食事面がとても優れており、部屋が区切られていてバタバタとしていないのもよく、感染症の広がりも止められているのかと思い、持ち物が少なくてよいのも親として助かる」「園の皆様が子どもたちの自律性に寄り添っているところがよい」などの声が寄せられている。
要望などとしては、安全・保健衛生や日常の保育内容、設備や職員の接遇に関することなどが見られた。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	36	2	0	0
実質的な満足度（「無回答・非該当」を除いた割合・以下同）は、「はい」が94.7%、「どちらともいえない」が5.3%となっている。 自由意見には「同年代の子と遊ぶ機会、また家族以外の大人との交流ができ、子どもが一気に成長した」「保育園に行ってからできるようになったことが増え、もちろん成長しているのでできることが増えて当然かもしれないが、友達との関わりなど、家ではできないことができていると思う」「特に食育がよい取組だと感じる」など、計6件の声があった。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	35	3	0	0
「はい」が92.1%、「どちらともいえない」が7.9%となっており、「はい」の値は前回（2021年度・以下同、72.9%）から改善されている。 自由意見は4件で、「外遊びでは、コンビカーが大好きで走り回っていたり、砂場や木登りなど自然溢れる園庭だからこそできることにどんどん挑戦していて、成長していることを感じられる」「園では、わが子の新たな興味関心を刺激する活動が多いので、園での活動を参考に自宅での保育に活かしている」などのほか、子どもの興味・関心の伸長などについて、さらなる工夫を望む内容が見られる。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	35	3	0	0
「はい」が92.1%、「どちらともいえない」が7.9%となっている。 自由意見は9件で、「世界の料理や地方の料理を提供してもらっており、本人も楽しんでいる」「特に野菜が苦手で食べなかったが、おいしい給食や先生の声かけ、友達がたくさん食べている様子を見て、少しずつ食べられるようになっていてうれしく思う」「とてもおいしいようで、毎日楽しみにしている」「アレルギーや誤飲などのインシデントがないよう配慮してくれる」などのほか、食が進まない子どもへの配慮について、さらなる工夫を望む声が見られる。				

《事業所名：LIFE SCHOOL桐ケ丘こどものもり》

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	32	5	1	0
「はい」が84.2%、「どちらともいえない」が13.2%、「いいえ」が2.6%となっており、「はい」の値は前回（52.2%）から顕著な改善が見られる。 自由意見は6件で、「季節によって顔色を変える園庭で、季節の変化を感じながらたくさんのおもしろい発見があるようで、わが子もたくさんうれしそうにその話をしてくれる」「自然に関わる遊びや、何かを学ぶ機会が以前に比べ増えていると感じる」「戸外遊びは園庭やテラスが中心である」のほか、社会と関わる機会や戸外活動、行事等のさらなる充実を望む声が寄せられている。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	36	2	0	0
「はい」が94.7%、「どちらともいえない」が5.3%となっている。 自由意見は4件で、「突然の残業にもよく対応してくれていて感謝である」「いつも優しく対応してくれていてありがたい」「いつも対応がありがたく、非常に助かっている」のほか、「過去そのような機会はなかった」との声があった。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	32	3	2	1
「はい」が86.5%、「どちらともいえない」が8.1%、「いいえ」が5.4%となっており、「はい」の値は前回（73.5%）から改善傾向が見られる。 自由意見は7件で、「ありがたい」「災害時のための訓練や防犯対策など、よくやっていると思う」のほか、保育中の安全管理や設備面、外部侵入対策等について、気になる点や要望が挙げられている。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	34	2	1	1
「はい」が91.9%、「どちらともいえない」が5.4%、「いいえ」が2.7%となっている。 自由意見は6件で、「親子イベントを週末に開催してもらえるので、参加しやすく感謝している」「親の休みに合わせて工夫されていると思う」「いつもありがたい」などのほか、行事の際の土曜保育の利用や、日程等の連絡などにおける配慮について、さらなる検討を望む声が見られる。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	31	4	2	1
「はい」が83.8%、「どちらともいえない」が10.8%、「いいえ」が5.4%となっている。 自由意見は4件で、「話をよく聞いてくれて、また園での様子を教えてもらえるので安心して預けることができる」「園にいる先生方、特に担任の先生方には全幅の信頼をおいて、育児相談や家の様子・園での様子を話している」「よく話をさせてもらっている」のほか、連絡の仕組みなどに関する声が見られた。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	33	4	0	1
「はい」が89.2%、「どちらともいえない」が10.8%となっている。 自由意見は7件で、「いつもとてもきれいである」「いつもきれいにしてくれてありがたい」「基本的に清潔だなと思い、スタッフが手薄のところは自動掃除機を入れておりとてもよく、雨の日はタオルの用意もあり助かる」などのほか、清掃や衛生管理について、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	35	1	1	1
「はい」が94.6%、「どちらともいえない」が2.7%、「いいえ」が2.7%となっており、「はい」の値は前回（79.6%）から改善されている。 自由意見は5件で、「適切だと思う」「エプロンをしないのがよく、保育園というより、子どもの森って感じがする」「若い先生が多い園なのでマツエク、パーツが付いていなければネイルも可でよいと思い、先生方もモチベーションを上げるために許容範囲を広げるのは全然いいと思う」などのほか、職員の保護者・子どもへの挨拶や接遇について、さらなる配慮を望む声が見られる。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	31	4	1	2
「はい」が86.1%、「どちらともいえない」が11.1%、「いいえ」が2.8%となっている。 自由意見は4件で、「信頼できる」「以前、病院に連れていってもらったことがある」のほか、ケガの把握・対応等について、さらなる配慮を望む声があった。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	25	8	1	4
「はい」が73.5%、「どちらともいえない」が23.5%、「いいえ」が2.9%となっている。 自由意見は6件で、「双方の気持ちを大事にしてくれる」「細かなことでもきちんと報告がある」のほか、子ども同士のトラブル等の把握や保護者への報告について、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	35	2	1	0
「はい」が92.1%、「どちらともいえない」が5.3%、「いいえ」が2.6%となっている。 自由意見は3件で、「子どもたちの気持ちを優先して把握してくれていると思う」「その日の様子を聞いた質問にきちんと答えてもらえるので、よく見てくれていると思う」のほか、子どもの心情に寄り添った対応などについて、さらなる配慮を望む声が見られる。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	33	4	0	1
「はい」が89.2%、「どちらともいえない」が10.8%となっている。 自由意見は4件で、「そのように思う」のほか、プライバシー保護等へのさらなる配慮を望む内容や、「過去そのような事例はなかった」などの声が見られた。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	32	5	0	1
「はい」が86.5%、「どちらともいえない」が13.5%となっている。 自由意見には「大変わかりやすい」「迎えに行った際に、その日にあったことを細かく説明してくれる」の2件が寄せられている。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	26	5	2	5
「はい」が78.8%、「どちらともいえない」が15.2%、「いいえ」が6.1%となっている。 自由意見は4件で、「不満だけではなく、不安も解消してくれる」のほか、保護者の不満・要望等への傾聴や対応について、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	17	9	6	6
「はい」が53.1%、「どちらともいえない」が28.1%、「いいえ」が18.8%となっている。 自由意見には「困っていないので情報をもらっておらず、どこかに記載があるのかもしれないが、意識していないのでわからない」との声があった。				

Ⅰ 組織マネジメント項目（カテゴリー1～5、7）

No.	共通評価項目

カテゴリー1

1 リーダーシップと意思決定

サブカテゴリー1（1-1）

事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている　　サブカテゴリー毎の標準項目実施状況　7／7

評価項目1
事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）を周知している　　評点（○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
◉あり ○なし	2. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当

評価項目2
経営層（運営管理者含む）は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている　　評点（○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○非該当
◉あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○非該当

評価項目3
重要な案件について、経営層（運営管理者含む）は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している　　評点（○○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○非該当
◉あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
◉あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当

カテゴリー1の講評

法人が大切にする保育の考え方を、研修・面談・会議等の場で職員に伝えている

系列園共通の保育理念は、職員には入職時に説明するほか、「ひとりひとりをたいせつに」という法人の理念を日々の言動で体現するという強い使命感を持って職務にあたることを求めており、法人研修や園内研修、保育計画の策定と振り返り、行事を実施する際の話し合いなど、保育理念の再理解を促す機会をさまざまに設けている。また園長は、保育理念の実践を通じて子どもの成長に関わることは、未来を創ることでもあるという、保育者としての役割や喜びを職員に伝えることを自らの役割と認識し、面談や会議など、折に触れて伝えるよう心がけている。

入園時の説明のほか、保護者懇談会や掲示物等を通じて、園の理念を保護者に伝えている

保護者に向けては、ホームページやパンフレットを通じて保育の考え方を発信するほか、入園前の見学では、園の保育の特徴や保育理念を伝え、入園時には重要事項説明書を用いて、園運営や保護者支援の方針を説明している。また保護者懇談会を実施しており、子どもの姿や成長の見通しのほか、年間の行事の説明を通じて、園が目指す保育の内容や意図が伝わるよう心がけている。その他個人面談、クラス便りや日々の「ドキュメンテーション」、適時行う掲示物、保育参観や保護者参加の行事なども、保護者に園の理念を伝える機会と考えている。

検討・決定の仕組みを整え、重要な決定事項は文書配付や掲示により保護者に伝えている

規程の改廃や予算・決算、工事の入札など、園運営に係る重要案件については、法人評議員会・理事会にて協議され、決定される仕組みとなっており、結果や経緯については園長会などを通じて園に周知されている。園内における事業計画や全体的な計画をもとにする保育・食育・保健の各計画のほか、行事企画、諸課題の解決への改善活動などに関する検討は、諸会議の場で行っており、職員会議・クラス会議・担当者間の打ち合わせなど、案件によって検討の範囲を変えている。また各種の重要事項は、文書の配付・配信・掲示等で保護者に伝えている。

2	カテゴリー2		
	事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
	サブカテゴリー1(2-1)		
	事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	6／6
	評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している	評点(○○○○○○)	

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
◉あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
◉あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
◉あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
◉あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
◉あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当

サブカテゴリー2(2-2)

実践的な計画策定に取り組んでいる　サブカテゴリー毎の標準項目実施状況　5／5

評価項目1
事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している　評点(○○○)

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
◉あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
◉あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当

評価項目2
着実な計画の実行に取り組んでいる　評点(○○)

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
◉あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当

カテゴリー2の講評

保護者の意向や地域ニーズ、業界の動向等、さまざまな情報の収集に取り組んでいる

保護者の意向や要望は、日々のコミュニケーションや面談等で把握するほか、第三者委員や意見箱の設置など、意見を表明しやすい環境を整えている。保護者全体のニーズを把握すべく、「スポーツフェスティバル」や保育参観等の行事後のアンケートや、系列園全園で実施する保護者満足度調査を行っている。地域の子育てニーズについては、一時保育や地域子育て支援事業、見学の受け入れ等、未就園世帯の来園の機会などに把握し、区内や業界全体の動向については、区内の園長会等への参画のほか、法人本部からの情報提供、報道などから収集している。

園内外の状況を踏まえて、中長期的な計画と単年度の諸計画を策定している

園運営に対する職員個人の意向は、日々の対話や人事考課制度における面談から把握するほか、保育計画の策定や行事企画の検討とそれらの振り返り、事故やヒヤリハット事例の共有と対策、避難訓練の振り返りなどを通じて、保育提供や業務遂行に関する諸問題を抽出している。これら園を取り巻く情勢や上記の多方面の情報を踏まえて、施設整備・乳児保育・幼児保育の視点から目標を定めた5か年の「中長期経営計画」のほか、単年度の事業計画及び園運営に関する目標達成等のための「目標管理シート」、全体的な計画や安全計画などを策定している。

計画を実現するための予算措置を講じ、計画の進捗を確認する仕組みを整えている

上記の諸計画を実践するための予算措置は、法人本部によって行われ、執行の管理や経営状況の把握は園と法人本部との連携のもとでなされており、諸計画は定期的に振り返りを行って、現状を確認している。また今年度新たに導入された、園運営に関する目標達成や課題解決のために活用する「目標管理シート」では、目標に対する達成度を評価するための指標を数字や状態で明示するほか、理事長と園長が3か月に一度、振り返りを実施して状況を確認、次の3か月の具体的な活動目標を定めるなど、計画を着実に実行に移すための仕組みが動き始めている。

3 経営における社会的責任

サブカテゴリー1(3-1)

社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 2／2

評価項目1
社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる

評点(○○)

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
◉あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。	○非該当

サブカテゴリー2(3-2)

利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4／4

評価項目1
利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている

評点(○○)

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
◉あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当

評価項目2
虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている

評点(○○)

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
◉あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当

サブカテゴリー3(3-3)

地域の福祉に役立つ取り組みを行っている

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5／5

評価項目1

透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる

評点(○○)

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
◉あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当

評価項目2

地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている

評点(○○○)

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
◉あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
◉あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

カテゴリー3の講評

子どもの人権擁護に対する、職員の意識啓発に取り組んでいる

法人では「ひとりひとりを大切に」や「保育園ではいつでも子どもが主人公」に象徴されるような、子ども一人ひとりの主体性を尊重した保育実践を志向しており、入職時の研修において、子どものとらえ方や接し方、言葉遣い等の基本を伝えている。子どもの人権擁護への意識を持って保育にあたることが、職員会議等の際に園長・主任保育士から伝えられるほか、法人が開催する研修に職員を派遣して、意識の向上と知識の獲得を促しており、子どもの自己表出を保障し、発達特性や体質・文化的な背景を尊重した援助・環境構成の工夫に取り組んでいる。

不適切な保育を防止する学びの機会を設け、職員が安心できる環境の整備に努めている

今年度外部講師とともに、「北区の子どもの権利と幸せに関する条例」を読み合わせ、講師に質問をしたり、実際の事例を想定して、条文を考えてみたりするなどして、理解を深めている。また全国保育士会編の人権擁護に関するチェックリストを職員に配付し、自戒を促している。不適切な関わりを防止するため、保育現場で保育者の気になる所作や言動がある場合には、そのつどリーダー層による指導を行うほか、職員相互で助け合い、よい点を伝え合えるような関係づくりや、保育者の精神的な安定を保障する、福利厚生・労働環境の向上にも取り組んでいる。

苦情解決制度を保護者に説明し、子育て支援事業を実施するほか、諸機関と連携している

苦情解決制度の内容を重要事項説明書に掲載して、入園前に説明を行うほか、日々の対話、意見箱「ききみみずきん」の設置、アンケートの実施等を通じて、保護者の意向の把握に努めている。子育て支援事業を実施しており、専用の部屋を用意して毎日室内を開放し、離乳食講座や身体測定、イベントを実施しており、適宜相談に応じている。また毎月第4日曜日には、外国籍の住民を対象にした相談会「TOMONI」を実施している。地域の関連行政機関との連携を図っており、地区の園長会に園長が出席し、協働に努めている。

4 リスクマネジメント

サブカテゴリー1(4-1)

リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる　**サブカテゴリー毎の標準項目実施状況** 5／5

評価項目1
事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる　**評点(OOOOO)**

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
◉あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
◉あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
◉あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
◉あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当

サブカテゴリー2(4-2)

事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている　**サブカテゴリー毎の標準項目実施状況** 4／4

評価項目1
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている　**評点(OOOO)**

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
◉あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
◉あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
◉あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当

カテゴリー4の講評

園児の減少を重大なリスクの一つとし、園情報の発信や保育の質の向上に取り組んでいる

保育中の各種事故に加えて、園児の減少を運営の重大なリスクの一つとしている。定員の変更を実施するも、今年度も0歳児以外は定員充足に至らず、地域の状況として今後も就学前児童の増加を見込みづらいことから、入園希望のきっかけとなる子育て支援イベントの実施と、イベントのチラシを近隣の図書館や児童館に置かせてもらうなど、園の専門性や特色の外部への発信に取り組んでいる。また地域に選んでもらえる園づくりを目指し、保育の内容の充実や、そのための職員育成に注力するほか、競合する周辺の他園の充足率や動向の調査にも取り組んでいる。

保育の安全性向上を目指し、事故発生後の検証と原因・対策等の検討を行っている

看護師及び園長・主任・各クラスによる毎月の「事故防止委員会」では、ヒヤリハットが上がりにくい原因を検討し、職員の気づきの発信を促す取組として掲示板を活用したり、毎週金曜日の昼礼で報告したりするなどの工夫に取り組んでいる。また危険予知トレーニングに関する研修や、嘔吐処理や溺水事故予防等の実技訓練、防災訓練の振り返り、防災バッグの内容の見直し、園外マニュアル、広域避難場所の確認など、安全や危機を管理する取組が活発に行われている。今年度末に実施する事故の傾向と対策の検討は、発達段階も踏まえて行う予定としている。

情報管理を適切に行えるよう規程等を整え、情報漏洩防止に取り組んでいる

園の情報管理を適切に行えるよう、就業規則に各種情報の取り扱いや機密保持に関する実務上の遵守・禁止事項を定め、職員には入職時など、実習生等には受け入れ時に、関連の啓発がなされている。またホームページに記載の個人情報保護方針や、入園時に保護者から取得する各同意書に、個人情報の利用目的や開示・訂正等の請求への対応などが明記されている。重要書類や端末機器類の施錠管理、端末やソフトウェアのログイン制限、電子データの法人内の共用サーバでの管理・共有と端末への保存の禁止など、情報漏洩防止にも取り組んでいる。

カテゴリー5

5 職員と組織の能力向上

サブカテゴリー1(5-1)

事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる　　サブカテゴリー毎の標準項目実施状況　10／12

評価項目1
事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている
評点(○○)

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
◉あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当

評価項目2
事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している
評点(●●)

評価	標準項目	
○あり ◉なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
○あり ◉なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当

評価項目3
事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる
評点(○○○○)

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
◉あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
◉あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
◉あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当

評価項目4
職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる
評点(○○○○)

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
◉あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
◉あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
◉あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

サブカテゴリー2(5-2)

組織力の向上に取り組んでいる　サブカテゴリー毎の標準項目実施状況　3／3

評価項目1
組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる　評点(○○○)

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
◉あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
◉あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

カテゴリー5の講評

さまざまな方法で人材の採用に取り組むほか、労働環境の整備に努めている

職員の募集は、法人の担当部門と系列各園が協力し、集団就職説明会への参加や大学・短大等への訪問などにより行っている。法人サイトでは求人関連及び法人の保育や労働・育成環境等に関する多様な情報を発信し、オンラインでの見学・採用申し込みや面接も可能とし、加えて在職者への人材紹介の奨励や、園単位での非常勤者の採用活動もなされている。配属・異動及び配置は、各園の体制の状況や各人の経験・適性やライフステージ等を考慮して決定し、各種福利厚生のほか、残業を極力排する「定時出退社制度」など、労働環境の整備にも努めている。

職員が自身の役割を理解し、成長を促すことを目的とする人事考課制度を採り入れている

今年度改定の法人共通の人事考課制度では、一般層及び副主任から園長までの2階層で、職員が何を求められているのかを理解できるよう、組織・仕事・期待を大項目として、求める能力・態度等を明示し、個々の状態の評価を行っている。さらに個人目標を2つ掲げることとしており、目標に掲げる内容は、園長と職員との間で共通認識を形成し、育成につなげられるよう、可能な限り定量的なものや具体的な行動とするよう職員に伝えている。また目標に対する成果の有無を評価するのではなく、取り組む姿勢を評価することも併せて職員に伝えている。

人事考課制度により、職員一人ひとりの能力開発と、組織全体の質の向上を目指している

上記の人事考課と面談は、職員の自己成長を支援する目的で実施しており、「1on1」と呼ばれる形式を採用している。職員が主体的に自己の目標や意向のほか実践の事例を話し、園長は傾聴・共感に努め、必要な助言をしたり、期待を伝えたりしている。また職員の目標設定や意向をもとに、必要となる研修への参加を促している。法人内の研修は、経験・職階及び職種別の研鑽のほか、乳児・幼児保育やわらべうたなどの保育実践に関するもの、指導者が各園を巡回し、現場の視察と話し合いによって職員の見識を高める「合同研修」など、多様に行われている。

サブカテゴリー5

5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重　サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5／5

評価項目1
子どものプライバシー保護を徹底している　評点（○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 子どもに関する情報（事項）を外部とやりとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
◉あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当

評価項目2
サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している　評点（○○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
◉あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当
◉あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当

サブカテゴリー5の講評

子どものプライバシーや羞恥心への配慮、個人情報の保護に努めている

個人情報の取り扱いについては入園前説明会で説明し、利用承諾書に同意した旨の署名と提出を受けており、外部への情報提供・開示が必要な際には、そのつど保護者に確認している。子どものプライバシーへの配慮として、幼児の子ども用トイレは個別ブースを設け、着替えはカーテンを下ろして専用の場所で行うように配慮をしている。また、乳児から着替えの手順を知らせて、裸にならないように促し、幼児に向けて身につけられるようにしている。乳児のおむつ替えも、外部からの視線が遮られる専用の場所で行うなど、配慮に努めている。

人権を尊重した保育の実践に向け、点検や研修を通じて理解を深められるようにしている

子どもの人権を尊重した保育の実践に向け、入職前の法人研修にて子どもとの適切な関わりを学ぶ機会を設けている。入職後には全国保育士会が作成の「人権擁護のためのセルフチェックリスト」を活用した振り返りによって、各職員の自戒を促している。また今年度は、外部講師による「北区子どもの権利と幸せに関する条例」に関する読み合わせとともにその解釈を、年間を通じて学んで、子どもの人権の尊重についての理解を深めている。

虐待防止のマニュアルを整備し、事例共有や研鑽等によって理解を深めている

法人作成の系列園共通の「虐待対応マニュアル」には、虐待の定義や種類、園の役割や関係機関への通告と連携などの手順が定められ、職員は入職時の新任職員研修で学ぶ機会を設けている。家庭や職員による虐待に関する報道事例は、組織内で共有し職員の意識の継続を図るほか、見守りを要する家庭がある場合も関係者間で状況を共有して虐待の防止に努めている。保護者支援のキャリアアップ研修を職員が受講し、育児困難家庭の支援等について理解を深めている。

サブカテゴリー6

6 事業所業務の標準化　サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5／5

評価項目1
手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている
評点（○○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
◉あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
◉あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当

評価項目2
サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている
評点（○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
◉あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当

サブカテゴリー6の講評

法人や園作成のマニュアル類が整備され、活用できるようにしている

身だしなみや服装などの法人職員として勤務にあたる姿勢を「職員ルール」に定めている。SIDSやアレルギー等の対応手順を定めた「重大事故防止マニュアル」のほか、災害時や不審者の対応、感染症や衛生管理に関するマニュアルなど、系列園共通の手引書類が整備され、事務室に設置して職員の閲覧に供している。緊急時に備え、各クラスに「緊急対応マニュアル」を設置し、常時参照できるようにしている。危険個所を示した散歩マップや、保護者対応や面談の仕方等を示す「虎の巻」等の園独自のマニュアルの作成も行われている。

法人や園の研修等を通じて業務の一定水準を確保する仕組みを整えている

法人策定のマニュアル類の見直しや新規の作成は、法人の担当部署にて行っている。法人の新任者研修やOJT研修では、虐待防止等について学ぶ機会を設けるほか、保健・衛生に関する手順は毎月ロールプレイによる実践訓練を行い、緊急時に対応できるようにしている。また事故の防止に向け、危険予知訓練も毎月実施している。「事故防止委員会」では、園で作成する散歩マップは年度当初の更新に向け、危険個所を確認するほか、園庭の危険箇所の確認も行い明文化するなど、業務の一定水準を確保するための仕組みが整備されている。

保護者や職員の声等をもとに、園の運営等を見直す仕組みを整備している

保護者の声を園の運営に活かせるよう、法人が年2回アンケートで保護者の満足度調査を行い、園にて結果を精査して対策を講じている。また園においても保護者参加の行事後にウェブを活用したアンケートで収集した保護者の意見・要望を次期の企画の立案の参考としている。職員の意見も園の運営に活かせるよう、日常の会話や会議での提案等で職員の声の把握に努めるほか、園の諸課題の解決に向け、職員に提案を促している。園内の話し合いでは、折々の子どもの様子を踏まえた環境の設定や、行事の実施方法などについて検討を行っている。

Ⅲ サービスの実施項目（カテゴリー6-4）

サブカテゴリー4

サービスの実施項目　　サブカテゴリー毎の標準項目実施状況　36／36

1 評価項目1
子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている

評点（○○○○○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当
◉あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○非該当
◉あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当
◉あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども（障害のある子どもを含む）の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当
◉あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル（けんか・かみつき等）に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当
◉あり ○なし	6.【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○非該当

評価項目1の講評

個別の保育計画と発達に基づき、一人ひとりの成長に寄り添う保育環境を構築している

0～2歳児は毎月個別の保育計画を策定し、発達の段階や興味の対象を細かく観察しながら、それぞれの子どもに適したきめ細やかな支援を行っている。子どもの発達の状況を発達指標を用いて確認するとともに、日々の気づきを職員間で話し合ったり、連絡帳や保護者との対話を参考にしながら、子どもたちが主体的に過ごせる環境構成に取り組んでいる。0歳児は四肢の発達に合わせて粗大運動ができる環境を整えるほか、玩具は子どもの興味や発達に応じたものを用意し、子どもたちが自発的に選択をして遊びに取り組めるようにしている。

多文化・異年齢の交流から、子どもの多様性の理解や社会性・自己肯定感を養っている

幼児は、多様な文化的背景を持つ子どもたちと異年齢児がともに過ごす中で、多文化や異年齢の相互理解を深める活動に取り組んでいる。異文化交流の一環として、他国の伝統や行事、食文化を採り入れ、子どもたちが異なる文化に対して、尊重と興味を持てるよう促している。また、異年齢児が自然とふれ合える遊びや空間を提供し、年齢に関係なく助け合いながら学び合える場を作っている。このような環境の中で子どもたちが頼り合い、協力しながらコミュニケーション能力を育み、多様性を尊重し合うことで、社会性や自己肯定感を養っている。

「サークルタイム」での対話を通じて、自己表現できる力が育まれている

幼児の子どもたちは「サークルタイム」を通じて意見を出し合い、コミュニケーションを深めている。子どもたちが自分の考えを自由に表現できる場となり、互いの発言を尊重する大切さを学んでいる。また、それぞれの制作物を披露することで、互いを認め合い、自信が深められている。さらに、子ども同士でトラブルが発生した際には、子どもたちが主体となって話し合い、解決策を考える機会を設けている。ケガにつながる事例も子どもたちと一緒に考え、どのように防げたのかを話し合うことで、正解を求めるのではなく、問題解決へのプロセスを学んでいる。

2 評価項目2
子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている
評点（○○○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
◉あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
◉あり ○なし	3. 休息（昼寝を含む）の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
◉あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当

評価項目2の講評

毎日の保護者との対話や情報交換を通じ、子どもの状況を各家庭と共有している

登園時には、子どもの視診を行い、家庭での様子や健康状態について聴き取っている。保護者から得た情報は「申し送り表」に記録し、職員間で共有することで、子どもたちの状態や必要な支援を把握している。乳児については、毎日の連絡帳に食事・睡眠・排せつなどの様子を詳細に記載し、家庭と園での状況をともに確認しており、幼児についても必要な場合は個別で家庭とやり取りをしている。また、クラスでの活動内容や子どもたちの様子は、写真と文章でまとめた「ドキュメンテーション」を玄関内に掲示し、保護者にわかりやすく伝えている。

育児担当制を通じた個別支援と、生活習慣の自立に向けた援助に取り組んでいる

2歳児までは育児担当制をとり、担当保育者との愛着関係を深め、生活・遊びも含めて個別の状況を把握したうえで、一人ひとりに応じた支援ができるよう努めている。個別の発達課題を検討して保護者と連携を図り、子どもに寄り添った生活習慣獲得の支援を行っている。排せつの自立は、子どもの排尿間隔を把握してトイレに誘い、成功のつど喜びを共有し、自信や感覚を得られるようにしている。衣服の着脱や靴の脱ぎ履きの援助では、一緒に行いながら手順やコツを伝え、自分でしようとする姿が見られる頃には、見守りとさりげない援助を心がけている。

異年齢児との関わりを通じた学びや、心地よい休息・睡眠の環境づくりに配慮している

幼児では異年齢の子ども同士が関わることで、他の子の行動を見習い、自ら学び習得する力を育てることを大切にしている。そのため、登園時の支度などは、子ども自身が自分でできるように環境を整え、子どものペースに合わせながら見守るようにしている。午睡は生活リズムを整え、身体を休める時間としており、眠れない子どもにも一定時間は身体を横にしてリラックスできるようにしている。午睡の際にはその日の天候等を考慮し、カーテンの開け閉めや電灯の点灯・消灯などで室内の明るさを顔の見える程度に調整し、落ち着いて眠れる環境を整えている。

3 評価項目3
日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点（○○○○○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
◉あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
◉あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉（発声や喃語を含む）や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
◉あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
◉あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
◉あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当

評価項目3の講評

子どもの探究心を育む環境を整え、対話から生まれる活動の広がりを援助している

子どもが日々の生活や体験から活動を展開し、興味や関心を広げられるよう、素材・道具・図鑑などを用意するほか、保育者は子どもとの対話や「サークルタイム」での子ども同士の対話について助言したり、調べ方を提案している。子どもから発信された提案をかなえるために、子どもとともに考え、保護者や地域の人たちとの支援も得ながら積極的に行動に移すことで、周囲の人々の助けを借りて実現に近づく喜びを感じたり、困難なことに直面してもまた、仲間と考え、ほかの手段を探そうとする、心の柔軟さや強さを養っている。

信頼関係を基盤とした生活や遊びから、子どもが言葉や異文化に親しめるようにしている

乳児期は保育者との信頼関係を築きながら、子どもの行動や思いを保育者が代弁する役割を担い、安心して思いを伝え、言葉を習得していけるよう、応答的な支援に努めている。言葉に対する感覚を養うために、日常のごっこ遊びやわらべうた、絵本の読み聞かせ、集団遊びなどを通して言葉を引き出すようにしている。幼児の英語遊びの時間には歌やリズムに合わせて楽しみながら、英単語やフレーズに触れている。講師が投げかける簡単な質問にも元気に応え、友達同士で発音をまねるなど、遊びを通して異文化への興味を深め、言葉を使う楽しさを感じている。

戸外活動を通じて季節や自然に親しみ、探究心や協調性など、心の成長が促されている

散歩は、子どもたちが四季の移り変わりを感じ取り、風や日差し、草花の変化に触れながら、季節ごとの自然を体験し、感性を豊かに育めるようにしている。園庭では築山での登り降りや、ブランコ、トンネル、砂場での遊びを楽しんでいる。人工芝のテラスでは、友達と一緒に鬼ごっこやかけっこなどの集団遊びを行い、身体を動かしている。これらの活動を通じて、子どもたちは体力をつけ、仲間との協力やコミュニケーションを学び、遊びの楽しさと充実感を味わっている。集団遊びでは、ルールを守ることが皆の楽しい遊びにつながることを体験している。

4 評価項目4
日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している
評点（○○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
◉あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
◉あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当

評価項目4の講評

親子で参加する行事は、親子での協力や創造性を育み、園と家庭との連携も深まっている

行事は親子参加型を基本とし、親子での特別な活動を通じて音楽や制作、遊びなど多様な体験を提供している。この活動により、親子で役割分担や協力する楽しさや達成感を得ることができ、家庭での様子を知る機会や、園での活動を保護者が理解することができるため、家庭と園が一体となる取組となっている。園を一つのアートとしてとらえた親子での造形イベントでは、ダイナミックな素材や道具を自由に表現することを通じて、子どものアイディアや保護者の提案を伝え合い、親子で協力して造形を楽しむことができる1日となっている。

子どもが主体となる「スポーツフェスティバル」や三線演奏会を、親子で楽しんでいる

「スポーツフェスティバル」は、子どもたちが主体的に楽しめる運動会として開催し、当日に向けての過度な練習や緊張感を与えず、親子で自由に身体を動かし、遊び感覚で参加できるよう配慮されている。一人ひとりが自分のペースで参加し、仲間と自然に関わりながら、結果よりも過程を楽しむことを重視している。勝敗に関わらず、その瞬間の気持ちを大切にし、行事の本来の楽しさを味わいながら、達成感や自己肯定感を育んでいる。また「三線Night」では、親子で本物の演奏を楽しみながら飲食したり踊ったりする体験が提供されている。

子ども主体の遊びと日常を大切にした行事を実践し、保護者の理解につなげている

日頃の遊びを重視し、行事も遊びを中心に展開することで、子ども主体の活動となることに注力している。大人主導や日頃の遊びとは別の軸での行事ではなく、子どもたちの遊びや日常生活の延長線上で行事が行われるよう工夫している。行事に関しては入園説明会であらかじめ保護者に説明し、保護者の理解を得ている。保育士体験では、保護者がクラスに入り、子どもたちと一緒に過ごして給食をともにし、希望があれば個人面談も実施している。クリスマス会などでは親子イベントとして、職員が楽器を演奏するなど、親子で楽しめる時間を大切にしている。

5 評価項目5
保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている

評点（○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
◉あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当

評価項目5の講評

子どもの体調や気持ちに寄り添い、安心して過ごせるような保育に努めている

乳児は担当制を採用し、概ね特定の保育者が生活をともにすることで、子どもたち一人ひとりに細やかな声かけを行い、体調や気持ちを丁寧に見守っている。特に食事の量や水分補給、排尿の状況、午睡明けには体温も確認しながら、その時々の様子の把握に努めている。また、子どもたちが休める時にしっかりと休むことができるよう、日課や環境にも配慮し、長時間の生活を楽しく快適に過ごせるように援助している。不安定な様子が見られた時には、スキンシップや情緒的な安心感を大切にしながら、一人ひとりに寄り添った保育に取り組んでいる。

異年齢の子どもたちが安全に楽しく過ごせるよう、配慮や環境の工夫に努めている

夕刻以降、子どもたちが安全に楽しく過ごせるよう、可能な限り年齢別の部屋での保育を行っている。保育者はスキンシップを心がけ、子どもたちの不安を取り除き、安心感を与えながら過ごせるよう配慮している。発達に合わせた遊具を選び、誤飲などの危険を防ぐほか、空間を工夫して衝突を避けるようにしている。また、年上の子どもたちには、年下の子どもたちへの思いやりや配慮を伝え、異年齢の子どもたちが楽しく過ごせるようにしている。延長保育では家庭の夕食時間に合わせて補食・夕食を提供するなど、家庭との生活リズムの連続も大切にしている。

6 評価項目6
子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している
評点（OOOOO）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
◉あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
◉あり ○なし	3. 子どもの体調（食物アレルギーを含む）や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
◉あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み（食材の栽培や子どもの調理活動等）を行っている	○非該当
◉あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当

評価項目6の講評

子どもたちが自分のペースで楽しく食事を摂れるよう配慮している

食事は温かいものを温かいままで提供することを心がけており、各保育室には昼食用の食器が整然と収納され、家庭的な雰囲気を大切にしている。食事の時間は子どもたちがリラックスして食べられるよう、落ち着いた環境を整え、食事を楽しむことができるよう配慮している。乳児は担当制の中で食事を摂っており、各保育士が子ども一人ひとりのペースや食事の好みに配慮しながら、温かい食事を提供している。担当制により、子どもたちの食事の様子や食事に対する反応を細かく観察するよう努め、必要な支援を丁寧に行うよう配慮している。

季節の変化を感じる安全でおいしい食事提供と多様な食事形態に取り組んでいる

旬の食材を活用した献立を提供し、子どもたちは食を通じて季節の変化を感じている。多文化交流を深めるため、世界の料理や郷土料理、行事食を採り入れ、さまざまな文化に触れる機会を提供している。食物アレルギー対策として、卵を使用しない献立を作成しており、アレルギーを持つ子どもたちが安心して食事を摂れるよう、食材や調理法に工夫を凝らし、すべての子どもが安全に食事を楽しめる環境の提供に努めている。ハラル食についても、事前に必要な情報を把握したうえで、対象となる食材を除外したメニューを作成し、提供までの仕組みを整えている。

食への感謝と関心を育む食育活動や子どもたちの健康的な食を支える取組に努めている

食への興味・関心を深めるために食育計画を策定し、実際に食材に見て触れ、育て、命ある食物に感謝できるような心の育ちにつなげることを大切にしている。ニジマスのつかみ捕り体験では、魚を手でつかみ、その後、大人がさばいて食べるという過程を経験し、命をいただくことの大切さを実感し、食への感謝の気持ちを育んでいる。また、野菜や米の栽培を通じて自然の大切さや食物への理解を深め、年齢に応じたクッキング活動にも取り組んでいる。給食便りは園と家庭をつなぎ、栄養や食育の情報を提供して、子どもの健康的な食生活をサポートしている。

7 評価項目7
子どもが心身の健康を維持できるよう援助している

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
◉あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
◉あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み（乳幼児突然死症候群の予防を含む）を行っている	○非該当

評価項目7の講評

子ども自身で衛生や安全等を意識できるよう、取り組んでいる

散歩や公園等で遊ぶ前、プール遊びの前には、交通マナーや安全に遊ぶための約束事を職員から子どもたちに伝えている。クラスの手洗い場には、手洗いの方法を示したイラストを掲示し、生活の中で職員からの声かけ等で手洗いを促し、習慣として定着できるようにしている。看護師による保健指導は、子どもの様子を踏まえて手洗い指導を行い、幼児を対象とした咳エチケットやプライベートゾーンの指導によって、子どもの病気予防や自身で身を守れるよう意識を高めている。5歳児を対象に区の歯科衛生士による歯磨き指導も行われている。

保育者や看護師、嘱託医が子どもの健康状態の把握に努めている

日々の体調面の確認や、嘱託医による各種健診等によって子どもの健康状態の把握に努めている。登園時には、受け入れる職員が子どもの健康観察と保護者への口頭確認を行い、所見があれば当日の配慮に活かしている。乳児は午睡後に、個別の配慮が必要な幼児は定期的に検温を行うほか、看護師も定期的に各クラスを巡回するなどして子どもの健康状態を確認し、何かあれば嘱託医と相談できる体制を整えている。定期的な各種健診により、子どもの健康状態を確認し、所見があれば保護者に病院受診の依頼をしている。

保護者の理解と協力を得られるよう保健に関する説明と情報提供を行っている

入園時の利用開始にあたっての説明では、SIDSとその園の対策や、保健面に関わる約束事を保護者に説明し、子どもたちが健康的な集団生活を過ごせるよう、理解と協力を仰いでいる。保健便りでは、生活リズムの大切さや歯磨きの進め方、家庭における事故と予防などの保健や安全に関する話題を提供している。園児が感染症に罹患した際には、発生状況や感染症に関わる情報を玄関にある保健のスペースに掲示し、保護者に注意喚起をして、蔓延防止につなげられるようにしている。

8 評価項目8
保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている

評点（○○○○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
◉あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
◉あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
◉あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
◉あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当

評価項目8の講評

日々の対話を大切にし、育児相談に応じ個別状況に配慮した支援に努めている

保護者との日々のコミュニケーションを大切にし、相談しやすい雰囲気づくりに努めている。保護者から寄せられる育児の相談に適宜対応するほか、保護者の個別の事情を把握し、それに応じた支援を園として可能な範囲で行えるよう心がけている。保護者の就労による延長保育のスポット利用や、学校行事等の家庭の事情による土曜保育のスポット利用にも柔軟な対応を心がけている。また保護者の負担軽減にも配慮しており、今年度からおむつのサブスクリプションを導入したほか、エプロンやシーツは園が提供している。

行事参加を通じて保護者同士の交流や養育力向上を支援している

保護者同士が交流を行えるよう、今年度は保護者参加の行事を増やしている。「スポーツフェスティバル」では、親子競技を設けるほか、クラス別の懇談会では、歓談の場を設け、その中で育児の悩み等の共有と意見交換を行い、解消につなげられるようにしている。保育参観では、クラスの活動や職員と子どもの関わりを見てもらい、育児の参考となるようにしている。保護者が行事参加への見通しを持てるよう、年度当初に年間の行事予定を知らせ、毎月の園便りにも月の行事予定を掲載するほか、行事ごとの知らせも行っている。

保護者が安心して子どもを預けられるよう、子どもの様子を多様な方法で伝えている

子どもの様子は、日々の降園時の口頭による報告のほか、乳児はアプリ連絡帳を通じて一人ひとりの様子を伝えている。また幼児の活動は、写真にコメントを添えた「ドキュメンテーション」を玄関に掲示して、親子の会話のきっかけとなるようにしている。各クラス前でも、わらべうた等の折々の活動を伝える「ドキュメンテーション」を掲示して保護者に知らせている。年4回発行するクラス便りでは、各クラスの取組の様子を写真も織り交ぜながら説明している。クラス別の懇談会でも写真も活用しながら、直近の子どもの様子を報告している。

9 評価項目9
地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている

評点（○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
◉あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当

評価項目9の講評

子どもの生活の幅を広げられるよう、地域資源を活用した取組等を行っている

四季折々の自然を感じられるよう、子どもたちは園周辺を散策している。幼児クラスでは、ごっこ遊び等の集団遊びを園で行うにあたって、地元のカフェやハンバーガー屋、八百屋やスーパーマーケットを訪れ、店員に話を聴くなどして情報収集を行い、遊びに活かしている。年長児は、今年度東洋大学にある保育実習室を訪れ、学生が設定した環境で楽しんで遊び、学生とふれ合っている。埼玉県の畑で芋掘りに行っており、かまどを作って焼き芋にしたり、干し芋にしたりする等、活動を展開させて多様な体験を得られるようにしている。

職員以外の地域の多様な人々とふれ合う機会を設けている

年長児は、年に1回設けられる小学校体験で小学校の見学と小学1年生との交流を図っており、参加する他園の年長児との交流する機会ともなっている。沖縄の三線コンサート等の親子イベントや夏祭りでは、地域の方々の参加も呼びかけて開催しており、在園児が卒園児や地元の人々と交流する機会となっている。近隣の中学校からの職場体験生や、高校生の夏季ボランティア、保育の実習生等を受け入れており、保育の中で在園児とのふれ合いが持たれるなど、職員以外の人々と交流が行われている。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	1-1-2	経営層（運営管理者含む）は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている
タイトル①	園長は自らの役割と責任のもと、職員に園の目標を説明し、成長支援の意向を伝えている	
内容①	年度当初の職員会議において、園長から、定員の充足率や顧客満足度など、今年度掲げている目標の達成に向けた取組の進捗を定量的に測定するための指標と、目標が掲げられた背景や目標達成の重要性が伝えられ、定期的に実践・進捗状況の周知もなされている。また保育理念や保育所の社会的な役割、保育実践における喜びなどについても、折に触れて職員に伝えられている。人事考課における個別の面談においては、職員それぞれが設定した目標の達成に向けた全面的な支援の意向や、成果にとらわれず、取り組み姿勢を評価する旨が伝えられている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル②	園の取組等への理解が深まるよう、保育の可視化する発信に注力している	
内容②	クラスの取組等の「ドキュメンテーション」を通じて、子どもの育ちや学びの可視化に取り組んでいる。園便りでは、園の取組に加え、年度途中から保護者の養育力向上を支援する視点でコラムを掲載し、保育に対する興味・関心を高め、読んでもらえるよう工夫している。今年度実施方法を変更した保育参観では、保護者が見たい・知りたい活動等を見られるようにしている。昨年度まで不定期に更新していたホームページの「園日記」（ブログ）は、今年度から月1回以上更新し、新たにSNSを活用して、園の取組や子育て支援の情報を発信している。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	4-1-1	事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる
タイトル③	保育の安全性の向上を目指し、実技訓練を行い、事故の再発防止対策を講じている	
内容③	保育の安全性の向上を目指し、実技訓練を行い、事故の再発防止対策を講じている。年度当初には、年間を通じて実施する安全・危機管理に対する取組を確認している。防災バッグの中身の確認と更新のほか、嘔吐処理や気道内異物除去の手順、アナフィラキシー補助治療剤や解熱剤の使い方、溺水事故予防への留意事項の確認など即時対応に関する学びを深め、危険予知トレーニングにも取り組んでいる。また広域避難場所への経路や園外活動に関するマニュアルの確認を実施し、事故を記録し、収集・分類のほか原因の検証を行い、対策を講じている。	

《事業所名：LIFE SCHOOL桐ケ丘こどものもり》

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	異年齢交流や創造的活動を通じて、子どもたちの主体性や社会性を育み、自己表現と共感の力を深めている
	内容	主体性を尊重した異年齢での遊びを通じて、子どもたちが自分のペースで学びながら、異なる年齢の子どもたちと生活をともにしている。廃材等を活用した制作活動では創造力や問題解決能力が育まれ、限られた材料で自分のアイディアを形にする楽しさを体験している。日常の中で自然と多文化交流が進み、異なる背景を持つ子どもたちとの理解と尊重が深まるとともに、「サークルタイム」では子どもたちが思いを自由に表現できる場として、自己表現を支援している。これらの活動を通じて、子どもたちは自信を持ち、他者との協力や共感の大切さを学んでいる。
2	タイトル	個々の成長支援を丁寧に寄り添える担当制と、安心して自己を発揮できる環境のもとで、子どもの自主性や好奇心が育まれている
	内容	乳児は育児担当制のもとで、概ね特定の保育者が個別の成長や課題に応じた支援を行い、子どもたちが安心して過ごせる環境を整えており、温かい雰囲気の中で、自分の居場所を感じられるよう配慮している。また各室内には手作り玩具や道具を用意して創造力を育み、触れることにより五感を刺激し、遊びを通じて学びの体験を深めている。広い空間で自由に身体を動かせる環境も設け、自己表現や身体能力の向上を促している。生活の中でのこれらの積み重ねが、子どもたちに自信を与え、他者と関わる力やさまざまな物事への自発性の伸長につながっている。
3	タイトル	保護者の特性等を踏まえ、多様性を尊重した支援に努めている
	内容	日本語を母語としない外国家庭が在園する園の特性を踏まえ、見学時に配付する園パンフレットや入園時に配付する「園のしおり（重要事項説明書）」は外国語版も作成している。また園便りも同様に外国語版を作成・配付するほか、通訳スタッフが常駐して見学・入園時の説明や日常的な対話ができるようにしている。またハラルに対応し食事提供にも取り組むなど、外国家庭の宗教や文化への尊重に努めている。今年度、園長が旅行中の海外から、オンラインで渡航先の国を子どもたちに紹介し、異文化理解や多様性の受容につなげられるようにしている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	園の取組等への保護者のさらなる理解を深めるための発信の工夫を期待したい
	内容	園の取組等への保護者の理解が深まるよう、今年度の途中から保護者に興味や関心を持ってもらえる内容を園便りに掲載するほか、写真にコメントを添えた「ドキュメンテーション」で子どもたちの活動を発信している。また、保護者が知りたい活動が見られるよう、保育参観の実施方法を変更し、クラス別の保護者会でも保育の特徴とする取組の説明も行っている。保護者の興味につなげ、読んでもらうためのさらなる工夫のほか、保育参観や懇談会等の参加率の向上などを課題としており、保護者の理解をさらに高めるための今後の取組を期待したい。
2	タイトル	保育実践と子どもの育ちとの関係を事実として明らかにし、言語化するための、実践事例の整理・分類・蓄積に期待が寄せられる
	内容	園が重点的に取り組む課題の一つとして、園児の獲得に向けた園の保育の専門性の発信と保育の質の向上を掲げている。園の専門性を伝え、質の向上を図るうえで、園長は実践による子どもの成長の関係をファクト（事実）として明らかにし、言語化することが必要であると考えている。保護者に保育内容や子どもの育ちを伝える媒体として活用される、写真に保育者の考察を付した「ドキュメンテーション」が持つ保育実践の記録としての可能性を踏まえ、記録の再利用を見据えた整理・分類・蓄積にも検討の余地があると思われ、今後の検討が期待される。
3	タイトル	子どもの発達を支える保育計画を振り返り、適時自己評価を行い、より質の高い保育の実践につなげる仕組みづくりを期待したい
	内容	全体的な計画には、子どもの発達段階に合わせた保育を総合的に実施することを基本にし、年齢別の保育目標を達成するための具体的な方針が示されている。また、同計画に基づき、各クラスごとに年間・月間及び週日の指導計画を立て、日々の保育実践を進めている。これらの計画については、自己評価のあり方にさらなる検討の余地も見受けられており、保育が子どもの成長や発達にどのように活かされているのかを振り返り、定期的に自己評価を行い、強みと改善点を明確にすることで、さらに質の高い保育の実現につなげることを期待したい。